



紙幣銷却二付第二ノ意見書

赤丸

428



414
A 4404



紙幣銷却ニ付第二ノ意見書

大隈公

閣下ヨリ更ニ御注意ヲ蒙リシ次第

順次書

留メサリシハ残念ナリキ何トナレハ若之ヲ書留タレ
 ハ令拙者ノ為スヘキ答辨ヲシテ令一層簡單ニ令一層
 秩序アラシメ得タル可ケレバナリ
 拙者ハ左ノ趣意ヲ以テ既ニ前日陳述シタル所ノ紙幣
 漸次銷却法ニ對スル最モ大ナル駁説ト見做ナリ即チ
 紙幣漸次銷却ヲ執行ヤン為メ毎年流通セシムル所ノ
 正貨ハ日本ニ止マラスシテ輸出入ノ差ヲ補ハンタメ
 常ニ海外ニ輸出スベシ故ニ日本ノ景況ハ依然トシテ
 今日ノ如ク悪シキ有様ニシテ止ルヘシ
 此ノ駁説ニ引續キ紙幣固有ノ弊害ニ付キ貿易紹介物
 タル通貨上ニ於テ常ニ差額アル二個ノ相場ヨリ起ル

大正十一年四月贈

不幸ナル結果是ニ正貨ニ立戻ルルハ工業商業ニ對シテ起ル所ノ利益ニ付キ種々ノ總論ヲ承リタリ拙者ハ先ツ第一ノ駁說ヨリ論辨スヘシ輸出入ノ差ハ正貨ヲ以テナラデハ之ヲ償フテ能ハサルモノニシテ日本ノ外國貿易ニシテ輸入ノ輸出ニ超過スル間ハ其差ヲ補フ丈ノ正貨ハ常ニ海外ニ流出スヘキ丁固ヨリ然リトス

然レモ今要トスル所ハ紙幣漸次銷却法ニ於テ輸入ヲ倍々増スヘキヤ又ハ減スヘキヤ紙幣金額銷却法ニ於テ倍々輸入ヲ増スヘキヤ又ハ減スヘキヤヲ識別スルニアリ

反對說ヲ始メテ聞キ得タル片ニ當リ紙幣銷却法ノ奈何ハ貿易輸出入ノ差額上別ニ其感動ヲ及ホス丁ナシ

ト思考シタリシカ今日ニ至リテモ猶此ノ如シト思考スルナリ

輸出入ノ多寡正貨ノ多寡ニ因ルヨリモ寧ロ賣買國各自ノ需要ニ因テ定マルモノナリ正貨ハ唯物價ニ其感動カヲ及ホスヲ以テ貿易上ニハ間接ノ感動カナラデハ及ホサハルナリ

若シ日本ニ於テ正貨ノ寡キ時ハ貨物ヲ輸入スル外國人ニ於テ其得ル所ノ代價ハ必ス廉直ナラシ此ヲ他言スレハ或ハ若干ノ金額ニ對シテ割合ニ多クノ貨物ヲ與ヘサルヲ得サルヘシ此レニ反シテ正貨ノ多キトキハ其得ル所ノ代價ハ高直ニシテ或ル若干ノ金額ニ對シテ与フ所ノ貨物ノ量割合ニ寡ナカラシ是即チ經濟上及ヒ貿易上ノ自然ノ法ナリトス

日本ニ於テ向後モ仍ホ現今ノ有様ノ如ク正貨ノ量寡
ナレト假定センニ外國商人ニシテ其貨物ヲ日本ニ賣
ルハ之ヲ正貨ノ量多キ他ノ國ニ賣ルヨリモ少ナキ
正貨ヲ得ヘシ故ニ日本ノ正貨ヲ其自國ニ輸出スルニ
於テノ利益ハ自ラ寡少ナルベシ何トナレハ其自國ニ
著シタル日本正貨ノ價格ハ之ヲ日本ニ於テ使用スル
ヨリモ稍々少ナク加之運送費ヲモ要スレハナリ
此レニ及レテ今日日本ニ於テ外債ヲ起シ正貨ノ量ヲ多
カラシメタリト假定センニ外國品ノ購買者ハ貨物ノ
同レキ數量ニ對シ正貨ノ多量ヲ与ヘサルヲ得ス故ニ
外國輸入者ハ此ノ正貨ヲ其量稍々寡ク其價稍々貴キ
自國又ハ他ノ外國ニ輸出スルニ於テ利益アルヘシ
果シテ前段ノ如クナル片ハ如何ナル場合ニ於テ日本

ニ貨物ヲ輸入スル外國人ハ日本ノ貨物ヲ購買シ之ヲ
其自國ニ輸出スルニ於テ寡モ利益アル哉ヲ查覈セン
ニ此レ亦日本ニ於テ正貨ノ量寡キトキニ於テ利益ア
ルヲ癸見スルナリ
譬ヘハ今一外國人アリテ日本ニ原價壹万弗ノ毛綿織
物ヲ輸入シタリト假定センニ此壹万弗ハ日本ニ於テ
凡ソ壹万四千円ノ價ヲ有スルヲ以テ乃チ之ヲ以テ日
本ノ產物ヲ購買シ之ヲ輸出スルニ於テ利益アルヘシ
此ニ及レ右壹万弗ノ價ヲシテ唯壹万四千若クハ其近傍
ナラシメハ之ヲ以テ日本產物ヲ購買シ之ヲ輸出スル
ニ於テ大ニナル利益ナカルヘシ
故ニ正貨ノ寡少ナルハ日本ニ取りニツノ好結果アリ
第一ニハ日本ノ正貨ヲ其質ノ低正貨ノ稍々寡ナキ外

國ニ輸出スルニ於テ利益ナカラシメ第二ニハ是ヲ紙幣ニ換ヘ此ノ紙幣ヲ以テ日本產物ヲ購買スルニ於テ利益アラシムル此レナリ
又此レニ反レ日本ニ於テ正貨ノ量多キハ外國人ニ於テ貨物ヲ輸入シ之ヲ高價ニ賣拂ヒ以テ正貨ヲ得之ヲ正貨ノ量少キ外國ニ輸出スルニ利益アラシメントス此レ即チ日本ノ避ケ道レント欲スル所ノモノナルベシ

拙者ニ對スル高貴ナル反對論者ニ同意ヲ表セントノ渴望アルニ係ハラス到底此方按ヨリ他ノ方案ニ決著スルヲ能ハサルナリ今日本ニ於テ外債ヲ起スハ日本ニ入来スル正貨ノ量夥多ニシテ更ニ一層大ナル外國產物貨幣ノ輸出ヲ引起サシメ更ニ一層大ナル外國產物

ノ濫入ヲ来タスヘシ而シテ外國輸入者ハ其支拂ヲ受ルニ日本產物ヲ以テスルヨリモ正貨ヲ以テスルヲ望ムベシ

且拙者ノ思考スル所決シテ輸出入ノ差ヲ補フニ必用ナル正貨ノ量ナラテハ流通セシメスト云フニアラス拙者ノ冀望スル所ハ少クモ此益ノ二倍若クハ三倍ヲモ流通セシムルニ在リ(但シ其詳悉ハ本書ノ終ニ論スル所ノ手續及ヒ方法ヲ參看スヘシ)
大蔵省ニ於テハ貨物各年輸出入ノ差及貨幣美金銀地金ノ各年輸出入ノ差ニ付確實ナル調査備ハリタルナラン然ラハ陸軍海軍及ヒ諸公署ノ為ニ買入ル、官用品ハ輸入中何程ノ割合ヒヲ占ムルヤヲ區別スルハ緊要ナルモノニシテ且貨幣并金銀地金輸出ノ輸入ニ

超過スル高ハ貨物^輸輸出ニ超過スル高ト殆ト相合ス
ル哉否ヤヲ知ラサル可ラス

去ル五月中ノ貿易ヲ略記スル去ル廿三日刊行ノエコ
ノ、ジエ、ジャッポン新聞ヲ見ルニ貨物輸入ノ輸出ニ超過
スル一百万九拾五万四ニシテ貨幣及金銀地金輸出ノ輸
入ニ超過スル一貳拾貳万七千八百四ナリトアリ此數
ノ確實ナルヤ否ハ拙者モ疑フ所ナレド五月中ノ貨幣
輸出ハ五月中ノ貨物輸入ヲ補フモノニアラスシテ早
クモ去ル一月乃至二月頃ノ輸入ヲ補フモノナルハ明
白ナリ故ニ一ヶ年ヲ以テ此レヲ計算ヲナスハ貨物
ノ輸入ト貨幣ノ輸出トノ間自ラ相近寄ル一アルヘシ
拙者ハ数年間貨幣輸出ノ平均ニ據リ以テ流通スヘキ
二倍若クハ三倍ノ正貨ヲ計算スヘシ

猶又執行アラントヲ冀ヒ拙者モ其結果ヲ知ラントヲ
望ム一ツノ調査アリ即チ洋銀若クハ円銀ト紙幣トノ
差ノ多寡ハ貨物輸入ノ輸出ニ對スル超過ト貨幣及金
銀地金輸出ノ輸入ニ對スル超過トニ其景況ヲ及ホシ
タルカヲ知ル是レナリ数年前ニハ正貨ト紙幣ト殆ト
同價ナル年モアリ其後正貨ト紙幣トノ差逆増シ又ハ
逆減シタルトモアリ其増減シタル數多ノ永キ期節ア
リタルカ故ニ今此調査ヲ為スハ甚タ容易ナルトナル
ヘシ且又日本開港場ト外國諸市場トノ為換相場ヲモ
参考セサル可ラサルナリ

貨幣輸出ノ危難ニ根據シタル竄モ大ニナル駁論ニ對
シ拙者ノ意見ヲ約言スレハ此危難ハ正貨ノ多量ヲ以
テスルヨリモ正貨ノ寡量ヲ以テスル方竄モ少ナクシ

テ紙幣ヲ一時ニ引替工其引替ノ為メ世上ニ顯出シタル正貨ハ其輸出ヲ一層盛ナラシムヘシト断言スルナリ
第二ニ述ヘラレタル閣下ノ勘考ハ第一不換紙幣ノ弊害ニ付キ、第二正貨及ヒ紙幣二個ノ相場ヨリ起ル不幸ナル結果ニ付キ、第三正貨ニ立戻ルルハ之ヨリシテ農業工業ニ對シテ起ル所ノ利益ニ付キテノ総論ニ関スルモノナリ

第一ノ點ニ就テ不換紙幣ノ危難ト云フハ其發行ノ格外夥多ナルトキカ若クハ實用又ハ冗費ノ為メニ之ヲ限リナク増發シ且其増發ノ事ヲモ委細ニ世人ニ知ラシメサルカニ因テ國民ニ恐レヲ抱カシムルニアリ此ニ述フル所ハ一般ノ論ニシテ特別ニ日本ヲ指スモノ

ニアラス

故ニ日本ニ於テモ此ノ危難ハ日本政府ニ於テモ紙幣ヲ發行シタルハ皆世人ノ能ク承知スル非常危難ノ場合ニアラサルハナク而シテ今後更ニ増發セサルヘシト断然決定シタルニ於テハ著大ナルトナカルヘシ然レモ方今ハ勿論數年以來同銀ト紙幣トノ相場ニ洪大ナル差アリ此ヨリ起ル所ノ弊害實ニ洪ヒナルモノナレハ此ヲ醫治セサル可ラス次テ論究スヘキ第二ノ點即チ是レナリ
拙者ニ於テハ同銀ニ對シ紙幣ノ下落ハ紙幣ノ量夥多ニシテ同銀ノ量之少ナルニ起因スルト常ニ信シタリシカ今日モ猶如此信スルナリ此ノ如キ顯象ハ金銀兩貨ヲ用ユル諸國ニ於テモ亦金貨ト銀貨トノ間ニ起ル所ノモノニ

レテ現ニ日本ニ於テモ金銀兩貨ヲ比較スルハ自ラ
其差異アリ而シテ日本ニ於テ金銀兩貨ノ差額ノ些少
ナルハ蓋シ兩貨共ニ其量僅少ナルニ因テナリ
然レ氏紙幣ト銀貨トノ差ニ至テハ實ニ洪大ナリ是レ
即チ紙幣ノ量銀貨ノ量ヨリ多キ一七八倍ナルカエヘ
ナリ
而シテ此ノ差ヲ減少センニ二個ノ方法アリ即チ紙幣
ノ一部分ヲ切斷スルカ或ハ銀貨ヲ増加スルカニ在リ
若此ノ二個ノ方法ヲ同時ニ執行セハ夫レヨリ起ル所
ノ結果ハ二倍ナルヘシ
斯ク冀望スル所ノ結果ヲ充分ニ得ンカタメニハ此等
ノ處分法ヲシテ皆世ニ公ニセサル可ラス何トナレハ
此等事件ニ就テハ世上ノ信憑其功ヲ來タス最モ大ニ

ナルモノニシテ投機ノ如キハ唯ニ既ニ功績ヲ顯ハシ
又ハ功績ヲ期望スル所ノ善事ヲ減スルノミナラス動
モスレハ害悪ノ事ヲシテ益々洪大ニ聲言セントスレ
ハナリ
然レ氏論者ハ曰ク現今流通スル所ノ紙幣ノ量ハ商業
取引上ノ需用ニ超過セスシテ且封建時代ニ流通セシ
金銀貨幣ノ量ヨリ多カラスト又曰ク今日ニ在テハ租
稅ヲ拂フニ昔日ノ如ク天産(米麥等)ヲ以テセスシテ皆
貨幣ヲ用ユルモノナレハ昔日ヨリ遙カ多量ノ通貨ヲ
要スヘキナリト此レ甚タ至當ナル論ト云フヘシ
然ルニ今此ニ忘却ス可ラサル考案アリ往時ニ在テハ
人民各個ニ於テ常ニ國內ニ發行シタル通貨ノ一部分
ヲ貯蔵シタリ而テ其貯蔵ニ係ル丈ケハ乃チ流通貨幣

ハ減シタルモノナレハ從テ通貨ノ下落ヲ防止シタル
ナリ今日ニ在テハ紙幣ヲ貯蔵スル者ナク發行シタル
所ノ紙幣ハ皆常ニ流通上ニ現在ス而シテ人々皆紙幣ヲ
貯蔵セシヨリ寧ロ此ヲ以テ貨物、消費物、奢侈物、土地、或
ハ家屋等ヲ買入ル、一ヲ冀望スルカ故ニ供求ノ紙幣
常ニ多ク從テ其下落ヲ來セルナリ
此ニ至リ拙者ハ一ノ問題ヲ起スヲ得ヘシ但此ヲ起ス
ノ許可アリタルカ故ニ

拙者ハ政府ノ國庫ニ正貨何程ノ貯蔵アルトノ談話ヲ
承リタリ然レ氏又平常國庫ニ不絶存在スル所ノ紙幣
ハ何程ナルカヲ知ルトモ亦要用ナリ
譬へハ令政府ニ於テ國內平定ノ後使用セサル所ノ紙
幣貳千万圓アリタランニハ此レ即テ流通上必要ナル

額ニ超過シタル紙幣貳千万圓アル證據ノ一ト云フヘ
シ

拙者ハ此ノ貳千万圓ヲ直ニ切斷スヘシト云フニアラ
ス何トナレハ一大國ニ於テハ常ニ不意ノ事件ヨリ起
ル臨時ノ需要アルモノナレハナリ然レ氏拙者ハ此紙
幣ヲ五分シ毎年其五分ノ一ヲ切斷セントテ上言スヘ
シ而テ此切斷アリシトテ世ニ公ニスルハ忽チ紙幣
ハ銀貨ニ對スル現今ノ差ノ五分ノ一乃至二三ヲ騰貴
スヘキハ必然ナリ

拙者ハ此ノ第二ノ點ニ就キ拙者ノ意見ヲ約言スレハ
紙幣ト銀貨トノ差ハ憂フヘキモノナレ氏自然ノ方法
ニ據リ之ヲ減却スルハ甚タ難キモノニアラスシテ國
庫ニ對スルモ國ニ對スルモ紙幣全額ヲ銷却スル方案

ノ如ク困難ナルモノニアラサルヘシト断言スルナ
リ
惣論第三點ノ主旨ハ紙幣ノ流通ハ日用品ノ騰貴ヲ来
タシ農業工業ノ進歩ヲ妨ク故ニ紙幣ノ引換ハ物價ノ
下落ヲ来タシ國家ノ富源ノ開進ヲ来タスト云フニア
リ
拙者ハ今左ニ右ノ二點ヲ分別シテ論辨スヘシ

第一 物價ノ騰貴

米炭薪油等ノ如キ日用品物價ノ此數年來非常ニ騰貴
シタルトハ確乎タリ而シテ爰ニ一ツノ困難ナルハ此
物價騰貴ノ原因ハ果シテ何ニアル哉ヲ知ルニアリ然
レモ決シテ此レヲ以テ天産ノ僅少ナルニ因ルトナス
ヘカラス何ントナレハ事實ニ於テ此數年來ノ收穫ハ

皆充分ナリシヲ以テナリ

物價騰貴ノ何分カハ米ノ投機賣買ニ因ルモノトスル
ヲ得ヘシ而シテ又米穀所持人ノ中ニ於テモ其價ヲ騰
貴セシメントタメノ術計アリタルニ消費者ニ於テハ此
術計ニ反對スルノ氣カナク何ノ論モナク米穀所持人
カ望ム終ノ價ヲ承知シタレハ賣主ノ冀望ヲシテ益々
増長セシメタルナラン
消費者ノ窠モ良キ抵抗方ハ時々横港ニ輸入スル所ノ
支那米ヲ消費スルニアレモ其滋味惡シトナシテ志
石ニ付貳三四廉價ニ屬スルニ係ラス誰レアツテ之カ
消費ヲナスモノナシ而シテ支那米ノ消費益々盛ニシテ
之ヲ香港西港等ヨリ輸入スル益々盛ナレハ兩國米價
ノ差モ從テ倍々大ニナラン拙者ニ於テハ曾テ日本人

中支那米ヲ食スル中ハ疾病ニ罹ルト云フ者アルヲ聞
キタレ氏之レ全ク想像ニ関スルモノナリト云ハサル
可ラス

然レ氏唯投機賣買ノミヲ以テ米價騰貴ノ原因トナス
ヘカラス拙者ノ思考スル所ニテハ耕作人ニ於テモ重
キ租税ヲ拂ハサルヲ得サルヲ以テ租税ヲ納メタルモ
其勞ニ對シ猶ホ何分カノ利益ヲ得ンタメ米價ヲシテ
騰貴セシメタルナルヘシ

然ラハ米價ノ騰貴ハ果シテ耕作人ノ方ヨリ始リタル
カヲ知ラザルヘカラス果シテ然ラハ此レ竊自然ニ最
當然ナルモノナレハ此レヲ医スルニ此又竊モ當然ナ
ル二個ノ藥劑ノ外アルヲナキナリ即チ地租ヲ減額ス
ルカ或ハ農業者ヲシテ昔時ノ如クニ地租ノ全額若シ

クハ其一部ヲ米ニテ納メシムルニアリトス

地租ノ減額ハ現今ニ於テ行レ難キモノアルヘシ何ト
ナレハ既ニ明治十年ノ春ニ於テ其六分ノ一ヲ減シ百
分ノ三ヲ百分ノ二半迄ニ減下セシメタレハナリ

天産ヲ以テ租税ヲ納メシムル法ニ立戻ルトハ之ヲ施
行スルニ於テ困難少ナカラサルヘシ然レ氏食用産物
ノ大ナル部分ヲシテ政府ノ手ニ在ラシムル中ハ其
價ノ甚タ騰貴シタル時ニハ之ヲシテ下落セシムル
能フヘキモノトス

然レ氏此ニ至テ又二個ノ駁論顯出スヘシ其一ハ政府
ニ上納セシメタル米ノ量丈ハ暫時ナルモ市場ヨリ引
去ラレタルモノナルカ故ニ現今ノ米價ニ對シ更ニ新
シキ騰貴ヲ來タスヘシ此時ニ當テ投機者ノ占賣ハ前

時ヨリ少量ノ米ニ對スルモノナレハ之ヲ行フ一層
容易ニシテ政府再々其米ヲ市場ニ賣出ス片ニ於テノ
功能ハ此新原因ヨリ生シタル新騰貴ヲ止ムルノミニ
アツテ仮令再々現今ノ有様ニ立戻ラサルモ之ニ遠カ
ラサル位置ニ立戻ルナラント云フニアリ
其二ハ大蔵省ニ於テモ各々其需要アルモノナレハ常
ニ其米ヲ市場ニ充分ニ糶買シ以テ之々市價ヲ下落セ
シメンヲ求メスレテ反テ時トシテハ市場ニ米價ノ
下落ヲ来タスニ充分ナラサル少量宛ノ米ヲ賣出シ相
場ノ騰貴ヨリ利益ヲ博センヲ求ムルカ如キノ弊ノ
起生セサルヘキカラ恐ルハニアリ
此ニ及シ若政府ニ於テ市價ヲ下落セシメンタメ下落
相場ヲ以テ其米ヲ賣出ス片ハ此レ即チ人民ノ利益ニ

違スルナレハ政府ノ歳入ニ於テハ不足ヲ生スルナ
アルヘシ此又邦國ノタメ一ノ困難ト云ハサルヘカラ
ス
今正貨ヲ以テ紙幣ヲ引換ユル片ハ其米價ニ對シテノ
關係ハ如何カアル可キヤヲ考查スヘシ
此事ニ就キ爰ニ起ル所ノ推測ヲシテ根据アラシメン
ニハ先ツ物價ニ對シテ紙幣ノ感動力ハ如何カアルヘ
キヤヲ發見セサルヘカラス
紙幣ニシテ若シ物價ヲ騰貴セシムルナラハ此レ即チ
紙幣ノ下落シタルカ故ナリ而シテ紙幣ノ下落シタル
カ故ナリ而シテ紙幣ノ下落シタル其原因唯一ツニシ
テ即チ現今ノ流通高甚タ以テ夥多ナルニ因ルナリ
然レハ紙幣ノ流通高甚タ以テ夥多ナルト云フヲ辨駁

レテ曰ク今日流通スル紙幣ノ高ハ往時封建時代ニ於
テ流通セシ金銀貨ニ紙幣ノ高ヨリ多カラスト然レ
氏流通上ヨリ隠蔽スル所ノ新古金銀貨ニ至テハ猶日
本中巨多アルヘシト云フ而シテ人口ニ對シ一般ノ需
要ニ對シ通貨(正貨モ紙幣モ)ノ量夥多ナルヤ否ヤヲ調
査マンニハ流通セサル所ノ通貨モ流通スル所ノ通貨
合セテ勘考セサル可ラス
通貨ノ一部分ハ常ニ臆病ニシテ獲利ノ心ナク結局已
レノ利益ヲ計ルニ暗キ人物ノ掌中ニ在テ其通貨ノ功
用ヲナサ、ルモノアリ殊ニ經濟ノ思想普及セサル國
ニ於テ政事上ノ變革ヨリ各人ノ利益ヲ轉動セシメタ
ル時ノ如キニ在テハ臆病ナル人ノ貯蔵ハ現在通貨ノ半
ハヲモ吸入シ得テ唯他ノ半ハノミ世上ニ流通スルモ

ノト推測スルヲ得ヘシ然ル片ニハ通貨ノ量寡クシテ
物價ハ低廉ナルベシ何トナレハ通貨ハ其量寡キ丈其
價從テ大ニナルモノナレハナリ
然ルニ貯蔵ニ係ル通貨ノ量ヲ補ハンタメ政府ニ於テ
其貯蔵ニ係ル丈ノ紙幣ヲ發行スル時ニ於テハ既ニ正
貨ヲ以テ成立ツ所ノ貯蔵アルカ故ニ此紙幣ハ決シテ
貯蔵ニ用ヒラレサルモノナリ然ル片ハ浮漂スル紙幣
ノ量夥多ニシテ商業上ノ需要ニ超過シ既ニ貯蔵ニ於
テモ其用ナケレハ貨物ヲ得シカタメ之ヲ供給セサル
ヲ得ス從テ貨物ニ於テハ需要セラル、ト多ケレハ亦
從テ其價騰貴スヘシ
故ニ今日ニ在テハ昔時ヨリ一倍ノ通貨アルモノトス
即チ昔時ノ通貨ハ隠蔽ニ係リ不殖益ナリト雖氏其存

在スルヤ明カニシテ即チ貯蓄ノ用ヲ成スモノ是レ其一ニシテ更ニ貯蔵ニ用ヒラレサル所ノ紙幣ナル^新通貨是レ其二ナリ
而シテ紙幣下落ノ原因ハ果シテ爰ニアリ其量流通ノ需要ニ超過スル即チ是レナリ
然リ而シテ此下落タルヤ決シテ正貨ニアラスシテ紙幣タルニ因ルニ在ラス今暫ク数年前ニ於テ政府ハ隠蔽シタル正貨ノ埋伏ヲ補ハンタメ志億貳千万円ノ紙幣ヲ発行マシテ其鑛山ノ産出又ハ他ノ方法ニ據リ三度ニ志億貳千万円ノ金銀貨ヲ流通市場ニ投出シ得タリト仮定センニ其物價ニ對スルノ結果ハ依然同様ナルモノニシテ紙幣ヲ発行シタルヨリ起リタル支若クハ之ニ遠カラサルノ騰貴ヲ来シタルヘキハ拙者ノ

確信スル所ナリ

然レ氏此場合ニ於テ起リ得ヘキ相違ノ原因ハ此正貨ノ一部ハ多分貨物^物ノ如クニ使用セラレ家具ニ鍍金シ美術品ヲ製造スル等ノタメ之レヲ溶解スルヲアリ得ヘシト雖氏紙幣ニ至テハ之ヲ通貨ニ用ユルヨリ更ニ他ノ使用ノ途ナキナリ
確トシテ動スヘカラサルト思考スル此ノ勘考^{日本ノ}文体ナレハ謙遜シテ愚クナル此ノ勘考ト云ハシムルナランハ拙者ヲシテ正貨ヲ以テ紙幣ト引換ユルヨリ起ル所ノ感動力ハ如何カアルヘキ乎ノ問ニ向テノ答辞ヲ得セシメタリ
此紙幣引換ヨリ起ル所ノ感動力ハ仍ホ数年前政府ニ於テ紙幣ヲ発行スルノ代リニ正貨ヲ発行シタルヘキ

片ノ有様ニ同シクシテ物價ハ依然騰貴シタルナラン
唯其異ナル所ハ餘裕ノ正貨ヲ工業又ハ美術ニ用ヒタ
ルヘキニアリトス

試ニ今一年間ニ紙幣五千万円ノ代リニ正貨五千万円
ヲ流通セシメヨ物價ハ依然トシテ今日ノ有様ニ在ル
ナラン然レモ若シ僅少ニモセヨ物價ノ下落スルヲア
ラハ是レ臆病者ニ於テ猶又其貯蔵ヲ増加シ從テ流通
スル貨幣ノ量幾分カヲ減少シ又工業美術ニ於テモ正
貨ノ僅少ナル部分ヲ家具等ノ用ニ供シタルニ因ルナ
ルヘシ

此レニ及シテ今若シ需要ニ超過スト認ムル紙幣ノ量
ヲ引上ルナラハ物價ハ必ス下落スヘシ何トナレハ紙
幣ノ量減少スレハ之ヲ供給スルヨリモ寧ロ需要セラ

ル、方多カル可ケレバナリ

第二 紙幣ノ流通ニ因リ農業工業ノ進歩上

ニ起ル所ノ妨害

第三 正貨ヲ以テ紙幣ニ引換ユルニ因テ國

家ノ富源タル農業工業上ニ起ル所ノ

改良

拙者ハ右二個ノ思考上ニ猶豫スルハ無益ナルモノト
信スルナリ何トナレハ此論者ハ汎漠ニ過キテ經濟ノ
論議上ニ於テ常ニ困却ナルモノナレハナリ

第二ニ掲記シタル妨害ニシテ果シテ真ナルモ此レ又
紙幣ノ下落ニ因ルモノナリ而シテ第三ニ掲記シタル
紙幣引換ヨリ起ルヘキ改良モ若シ正貨ノ量夥多ナル
片ハ更ニ其功ナカルベシ後令之レアルモ甚ク些少ナ

ルヘシ

既ニ前陳シタル現今ノ害ヲ醫スヘキ新方法ヲ指示スルノ前ニ猶ホ一應外國債ノ危難ナルヲ明記セサルヲ得ス

日本ト外國トノ交際上ニ於テ苟モ日本ノ利益ヲ外國ノ從屬ト為ス所ノモノハ日本人ノ精神之ヲ忌ミ嫌フヲノ深キ拙者ニ於テモ能ク承知スル所ナルカ故ニ外債ノ考案ニシテ之ヲ断念セラレサルハ拙者ニ於テモ少シク驚ク所ナリ

凡ソ外債ヲ起ス所ノ國ハ德義上ニ於ケルモ經濟上ニ於ケルモ其品位ヲ減少スルモノナリ外國ニ向テ其政略其施政其制度ヲ論議セシムルノ機會ヲ与フルモノナリ兎角外國ノ批評ニ係リ常ニ信用ノ如何ニ苦慮ス

ルモノナリ又外債ヲ起スハ其國ノ貧窮其困難或ハ其國民ヨリ政府ニ對スル不信用ヲ白状スルモノナリ

外國トノ交際上ニ於テハ屢々過憲スル所ノ日本ナレハ爰ニ於テコソ外債ノ危難ニ就キ過憲スルハ竝モ當然ナルヘシト了解スルナリ

政事上及德義上ノ弊害ノ外ニ尚ホ又會計上ノ弊害アリテ此弊害タルヤ令一層大切ナルモノトス

外債ヲ起ス所ニ於テハ第一ニ利子ヲ拂フヲ要シ第二ニ元金ヲ銷却スルヲ要スヘシ而シテ止ムナクンバ政府ニ於テ極度ノ節儉ヲ行ヒ時宜ニ因レハ新租稅ヲ發行スルモ以テ毎年ノ利子ハ之ヲ拂ヒ得ベシト雖且此外債ヲ起スニ永キ期限ヲ以テスルヲ能ハサルモノナレハ甚永カラサル期限内ニ如何シテ其元金ヲ銷

却シ得ル哉ニ至テハ更ニ了解セサル所ナリ
外國ヨリ借入レタル金額ハ紙幣ノ代リニ一度此ヲ流
通セシメタル以上決テ政府ノ手ニ在ラサルヲ忘ル
可カラス果シテ然レハ元金銷却ニ要スル正貨ヲ政府
ハ如何シテ得ントスル哉
正貨ニ立戻ル片ニ於テハ今日ニ埋伏スル所ノ日本新
古金銀貨ノ一小部分ヲシテ再ニ顯出セシムルアルモ
此又常ニ政府ノ手ニ在ラサルモノトス
此時ニ當ラハ政府ハ此等ノ金銀ヲ借入ル、_一能ベキ
ヤニアリ然レ氏後日ニ於テ起サントスル負債ノ能ク
成功シ得ル_一ノ慥カナラサル以上ハ決テ現今ノ負債
ヲ銷却スルニ後日他ノ負債ヲ以テスル_一ノ約ヲ結フ能
サルナリ

閣下ニ於テハ固ヨリ此ノ點ヲ考查セラレタル_一及ヒ
元金銷却ヲ執行シ得ヘシト為スニ充分ノ見込アル_一
ハ拙者ニ於テモ疑ハサル所ナレ氏拙者ノ見ル所ニヨ
レハ爰ニ一ツノ大ナル困難アルモノトス負債ハ一國
ニ取テモ一箇人ニ取テモ常ニ大危難ナルモノニテ譬
ヘハ阪ノ滑カナル人ノ此ヲ降ル_一ノ甚タ容易ナルモ
此ヲ昇ル_一ノ甚タ難キカ如シ而シテ負債ハ常ニ浪費
ヲ勵マシ且ツ人ニシテ時如大_一ナル財本ヲ有スル片
ハ奢侈又ハ不殖産ノ費用ニ之ヲ支用スル屢々ナルモ
トトス
然リ而シテ外國ニ於テ借入レタル金額ハ悉皆紙幣銷
却ノミニ支用スル_一ト假定センモ此レ即チ拙者ノ所
謂奢侈ニ屬スル事業ニシテ高貴ナル理財家モ自ラニ

白状セラレザル一國ノ高慢心ニ最モ多ク係ハルモノ
ナリ而シテ其望ム所ハ日本ヲシテ紙幣國ニ在ラシメ
サル是レナリ然レ氏日本ヲシテ外債勿ラシムルノ方
令一層尊ク令一層貴カラシ紙幣ハ内國文ニ関スル丁
ニテ恰モ一家ノ内事ナレ氏外債ニ至テハ決シテ然ル
能ハサルモノナリ
外債ヲ起スモ拙者ニ於テハ之レヲ能ク了解シ且之カ
賛譽ヲモナスヘキ只一ノ場合アリ實ニ殖産ノ費途譬
ハ土地開墾道路開通鐵道建築等ノ事業ノ為メニ借
り入ルモノ是レナリ此レ即チ日本ニ於テハ其資本
充分ナラサル農業工業等ヲ進捗セシム一ツノ方法ト
云フヘシ
此ノ如キ外債ハ外國ニ於テモ同意賛成ヲ得ヘク日本

ニ取テハ其毎年ニ支拂フ所ノ利子ヨリ多キモ決シテ
少ナカラサル利益ヲ生スヘク又其元金銷却ノ方法ヲ
モ仕度セシムヘク時宜ニ依レハ内國債(此時ニ至レハ
蓋シ容易ナルニ至ルヘシ)ヲ起シ以テ其元金銷却ヲ補
フヲ得ヘシ
故ニ若シ日本政府ニ於テ既ニ外債ノ手續及ヒ方法ヲ
得タルナラハ外債支用ノ目的ヲ變更シ以テ之レヲ起
スヲ得ベシ然ラハ日本人民ノ賛成ヲモ得ヘク債主ノ
賛成ヲモ得ヘシ
歐米何レノ國ニ於テモ其紙幣ヲ銷却センタメ外債ヲ
起サントシタルモノナシ伊太利澳地利ハ既ニ外債ヲ
起シ後來仍ホ之ヲ起スヲアルヘシト雖氏其目的タル
通路ノ擴張(又衰々哉戰爭ヲナス方法ノ擴張ニモ)ニア

リシ故尚ホ後來モ其目的ナルヘシ然レモ此等各國ニ於テ其紙幣ヲ銷却センカタメニ正貨ヲ外國ヨリ借り入ル、等ノ一ハ決シテ思企セサル所ナルヘシ拙者ハ今曩ニ既ニ閣下ニ一言シ置キタル者ニシテ現今ノ困難ヲ醫スル一簡單ニシテ且容易ナル二様ノ内國債ノ段ニ立至リタリ

紙幣漸次銷却ノ手續及ヒ方法

上ニ陳述シタル論辨ハ其目的トスル所左ノ四件ヲ證明スルニアリテ

其一正貨ノ輸出ハ正貨ヲ以テ紙幣ノ一部宛テ漸次引換ユルニ因ルヨリモ正貨ヲ以テ紙幣全額ヲ一時ニ引換ユルニ因ル方家モ恐ル可シトスル是レナリ
其二正貨ヲ以テ紙幣ノ全額ヲ引換ユルハ物價ニ對シ

別ニ其著シキ下落ヲ生セストスル是レナリ

其三此等種類ノ事業ノタメニ外債ヲ起スハ國庫ニ取ツテ其任甚重ケレモ其利益タル只自國ノ高慢心ヲ満足セシムルノ他アラサルナリトスル是レナリ

其四若シ政府ニ於テ外債ヲ起スニ容易ナル手續ヲ得タランニハ此レニ與フルニ寧ロ道路開通、鐵道建築、農業工業ノ勸奨、鑛山開採等ノ如キ殖産カラ有スル費途ノ目的ヲ以テスヘシトスル是レナリ

此レ迄正貨ヲ以テ紙幣全額ヲ引換ユル一ヲ辨駁シタリト雖モ此レヲ以テ決シテ現今ノ景況ヲ改良スルノ方ヲ施サスレテ可ナリト云フニアラス
拙者ハ吳々モ紙幣ノ漸次銷却法ヲ採用アラントテ上

言スヘシ

而シテ其法ハ同時ニ二様ノ手續ニ因ラサル可ラサル
モノトス即チ紙幣ノ幾分ヲ單簡ニ切斷スル其一ニシ
テ正貨ヲ以テ他ノ幾分ヲ引換ユル其二ナリ
右二様ノ手續ヲ施行スルハ實ニ必要ナリトス假リニ
今紙幣ノ幾分ヲ單ニ切斷スルノミニ限ルトスルハ
二個ノ障碍ニ出會スヘシ其一通貨ニ依リ成立スル所
ノ交易ノ方法多少遠カラサル内ニ其需要ニ對シテ不
充分トナルヘクシテ其二正貨ノ量ハ依然トシテ寡ク
其貯藏ニ係ルモノモ世上ニ顯出スルノ勢ヲ得サルヘ
シ何トナレハ其量ノ僅少ナルニ因リ益々高貴ノ價位
ヲ保有シ所持人ニ於テハ仍ホ今日ト同シク此レヲ手
放サ、ルヲ是レナリ

然レ氏又若シ正貨ヲ以テ引換ヘ得ヘキ部分ノ紙幣ノ
ミヲ銷却セハ此レ又紙幣ノ實價ヲ昂上セシムルニ於
テ其勢力不充分ナルヘシ

然ラハ二様ノ手續ヲ同時ニ施行シ得テ初メテ今日採
求スル所ノ二様ノ利益ヲ視ルヲ得ヘキナリ
因テ今同時ニ施行スヘキ二様ノ手續ヲ分別シテ之ヲ
左ニ陳述スヘシ

第一 漸次紙幣ノ一部ヲ單ニ引上ル

先ツ此ニ要トスル所ノモノハ毎年引上クヘキ紙幣ノ
高ヲ定ムル是レナリ

現今流通スル政府ノ紙幣(銀行紙幣ハ此ノ限りニアラ
ス)ハ其額十億万圓ナルカ故ニ二十ヶ年ニ悉皆之レヲ
銷却センニハ毎年五百万圓ヲ引上ルヲ以テ充分ナリ

トス

此五百萬圓ハ之レヲ折半シテ其一半ハ單ニ引上ルニ止マリ他一半ハ正貨ヲ以テ引換ユルヲ得ヘク又ハ之レヲ分等シテ三百萬圓ハ單ニ之レヲ引上ケ貳百萬圓ハ正貨ヲ以テ引換ユルモ或ハ貳百萬圓ハ唯單ニ之ヲ引上ケ三百萬圓ハ正貨ヲ以テ引換ユルモ亦々可ナリ然ラハ此ノ引上ヲ為サンニハ如何スヘキヤ内國債ノ手續ニ據ラントスル乎

若シ政府ニ於テ常ニ流通セサル、紙幣ノ巨額ヲ貯蓄スルヲアラハ特ラニ紙幣ヲ借り入レ是レカ利足ヲ拂フノ要ナシ後令ハ毎月唯單ニ貳拾五萬圓ヲ切斷スヘシ然ル片ハ十二ヶ月即チ一ケ年ノ切斷高ハ三百萬圓トナルヘシ若又國庫ニ於テ紙幣ノ貯蓄少ク課税ニ據

リ收入スル所ノモノハ悉皆國費ニ支用セラル、モノナル片ハ切斷スヘキ餘裕ノ高ヲ得ンニハ乃チ内國債ニ據ルノ外他ニ方法ナカルヘシ

此内國債ニ就キ第一ニ利子ノ割合第二ニ銷還ノ方法第三ニ証券ノ種類等ハ如何スヘキ哉

第一 利子ノ事

此内國債利子ハ今日迄大藏省ニ於テ發行シタル諸公債利子現今ノ割合ヨリモ何程カ高等ナラサルヘカラス若シ然ラサル片ハ人ハ皆既ニ其熟知シタル所ノ公債ノミニ其資本ヲ支用スルヲ望ムヘシ

而シテ現今ノ公債利子ハ其名價ニ對シ六歩乃至七歩ナルモ証書ノ實價ハ名價百圓ニ付七拾貳圓乃至七拾五圓ナルカ故ニ實際ノ所ハ元金百圓ニ付八歩ト三分

ノ一乃至九歩ト三分ノ一ニ當ル割合ナリ
然レモ政府ハ此新内國債ノ利子ニハ實際拂入ル、所
ノ元金ニ對シハ歩ト三分ノ一モ九歩五厘モ与フ可ラ
ス寧口拂入レ高ヲ名價百圓ニ付キ七拾貳圓ト定メ此レニ
六歩ノ利ヲ附シ而シテ銷還ノ期ニ至ラハ百圓ヲ拂フ
モノトスヘシ此レ即チ百圓ニ付六歩ノ利子ト云フモ
ノニシテ實際ハ元金百圓ニ付八歩五厘ノ利子ニ當ル
ナリ
債主ハ其拂ヒ込ミヲナスニ紙幣ノミヲ以テスヘケレ
ハ利子ノ支拂モ亦タ紙幣ヲ以テスヘシ而シテ其支拂
ヒ期限ノ所ハ日本現今ノ習慣ナル毎六ヶ月ヲ用ユヘ
シ

第二 銷還方法ノ事

日本ニ於テハ元金ヲ銷還セサル公債法ヲ未タ採用シ
タルトナク此ノ元金ハ政府ノ都合ニ依テ銷還スルノ
法ナリ
故ニ拙者ハ此際ニ於テハ元金ヲ銷還セサル公債法ヲ
採用アラントテ癸議セサルヘシ蓋シ其法ノ一般ノ人
氣ニ適當セサルヲ恐ルカ故ナリ
猶又若シ此公債ヲシテ近接シタル期限内ニ銷還スヘ
キモノトセハ其銷還ハ紙幣ヲ以テナラテハナスト能
ハサル可シ而シテ當時ニ於テ尚ホ如此ナラハ紙幣ノ
引上ハ全カラサルヘシ
今採用シ得ヘキ所ノ方案ハ左ノ如シ
政府ハ佞令ハ十年ノ後紙幣ヲ以テ銷還シ或ハ銷還ヲ
見合セ爾後正貨ヲ以テ其利足ヲ拂フノ法トスヘシ或

ハ又政府ヲシテ此ノ方法ノ内ヲ撰ハシムルノ代リニ
人民ヲシテ十年ノ後紙幣ヲ以テ銷還ヲ請求シ若クハ
元金ヲ置据ヘ正貨ヲ以テ利足ヲ請取ラントテ請求シ
得ルノ法トナスヘシ

蓋シ恐ラクハ債主(人民)ヲシテ其方法ヲ撰ハシムル方
公債ノ募集ヲ獎勵シ又政府ノタメニモ其利アルヘシ

第三 證券ノ種類

証書ハ歐州ノ慣例ニ從ヒ債主ノ望ミニ應ジ記名^名ヲ
或ハ無記名トナスヲ得ヘシ但シ無記名ノ証書ハ最モ
便利ナリトス何トナレハ無記名証書ハ此レヲ賣買ス
ルニ容易ニシテ且ツ利足ノ支拂ニモ輕便ナレハナリ
無記名証書ノ損失若クハ盜難ノ憂ヒハ佛朗西其他ノ
國ニ於テ當今使用

